

姫浦地区まちづくり委員会

～ 姫浦地区が元気になるために～

まちづくり拠点施設 事業内容(案)

まちづくり拠点施設

販売事業(朝市)

・自宅で採れた野菜、手作り工芸品、廃油石鹸などを販売し、収入増と健康増進、文化の向上などにつなげる。

交流事業

・花公園の整備や各種イベントを開催し、地区住民の一体感を醸成する。

宣伝事業(地区内案内板設置)

・特産品や観光宣伝を行うことにより、旅館や観光施設の活性化を図る。

姫浦地区住民が元気になる拠点づくり事業(案)

販売事業の目的と内容

【目的】

- ・販売による収入を生活の一助とする。 作る喜び
- ・労働による健康増進。 医療費削減
- ・荒廃した田畑の活用。
- ・文化活動の向上。
- ・認知症防止。
- ・ゴミの減量化。
- など

姫浦地区住民が元気になる拠点づくり事業(案)

【内容】

- ・まちづくり拠点施設で様々なものを販売する。

【販売物】

- ・自宅で栽培している野菜や果物、魚、特産品、古着・古本などの不用品、手作り工芸品、廃油石鹼など。

「まちづくり事業を継続させていくには、何らかの収入が必要」という意見が多数ありました。

牟田っ子朝市の風景



姫浦地区住民が元気になる拠点づくり事業(案)

交流事業の目的と内容

【目的】

- ・地域の一体感の醸成。
- ・伝統芸能の継続。

【内容】

- ・花公園などの「地域の癒しの場所」づくりや各種イベントの開催など。

【イベントの例】

- ・歩こう会、伝統工芸品などの各種展示会、棒踊りなど。

姫浦地区住民が元気になる拠点づくり事業(案)

宣伝事業の目的と内容

【目的】

- ・姫浦地区及び姫戸町の活性化を図る。

【内容】

- ・観光施設の案内、ゴミのポイ捨て禁止看板を設置する。

【宣伝対象施設等】

- ・姫浦地区(姫石神社、永目あこう樹等)など、観光客、つり客のゴミ持ち帰り啓発を図る。

姫浦地区住民が元気になる拠点づくり事業(案)

【場所の選定】

- ・拠点の場所については、国道沿いが地区住民や通勤者、観光客が立ち寄りやすいということで、仏道地区(白嶽森林公園入口)に設定。

現在は国道工事で利用されており、20年12月までは建設排土仮置き場となっていた。

現況写真



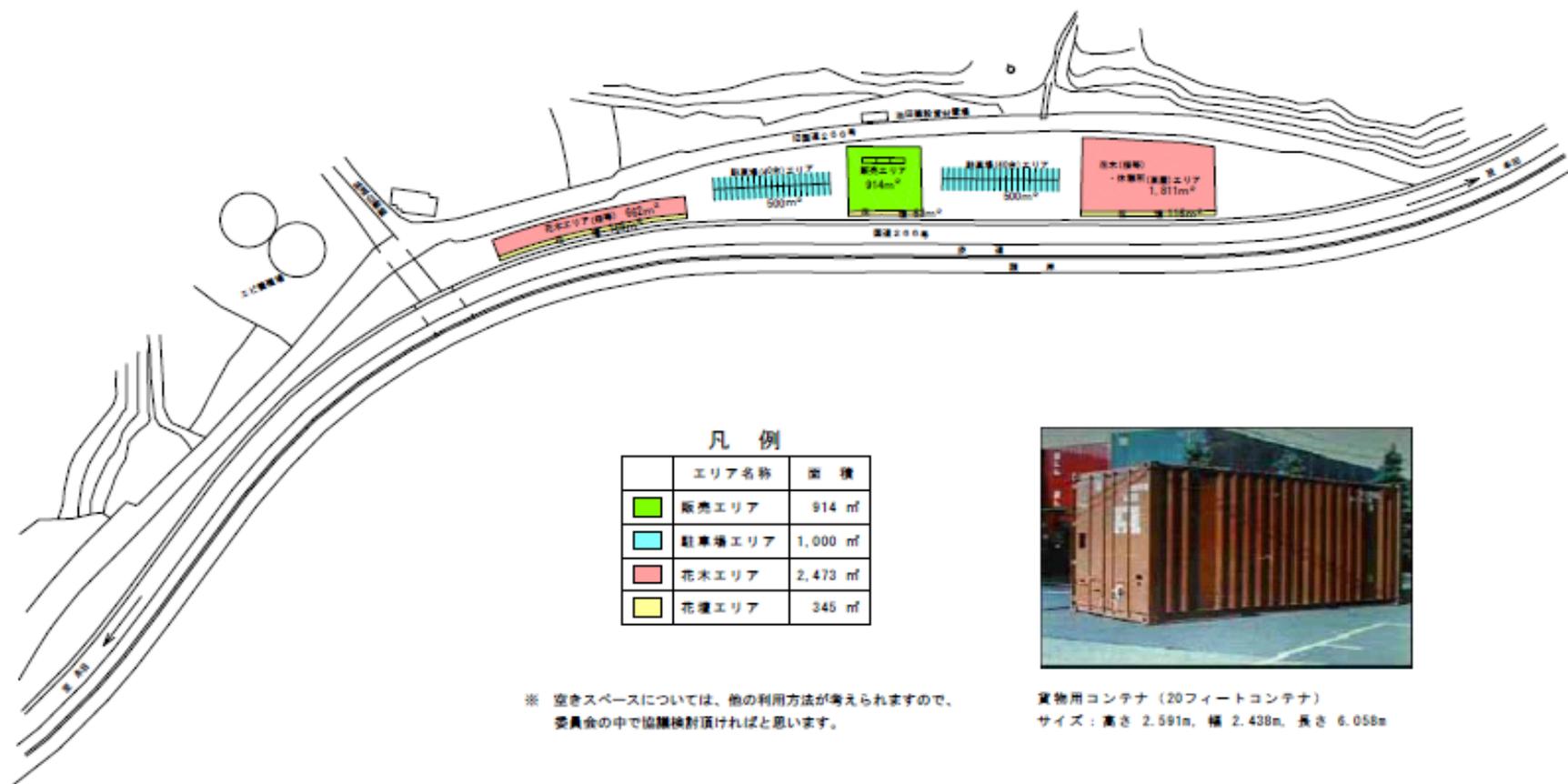
現況写真



仏道付近 航空写真



姫浦地区住民が元気になる拠点（仮称）イメージ図



凡例

	エリア名称	面積
■	販売エリア	914 m ²
■	駐車場エリア	1,000 m ²
■	花米エリア	2,473 m ²
■	花壇エリア	345 m ²

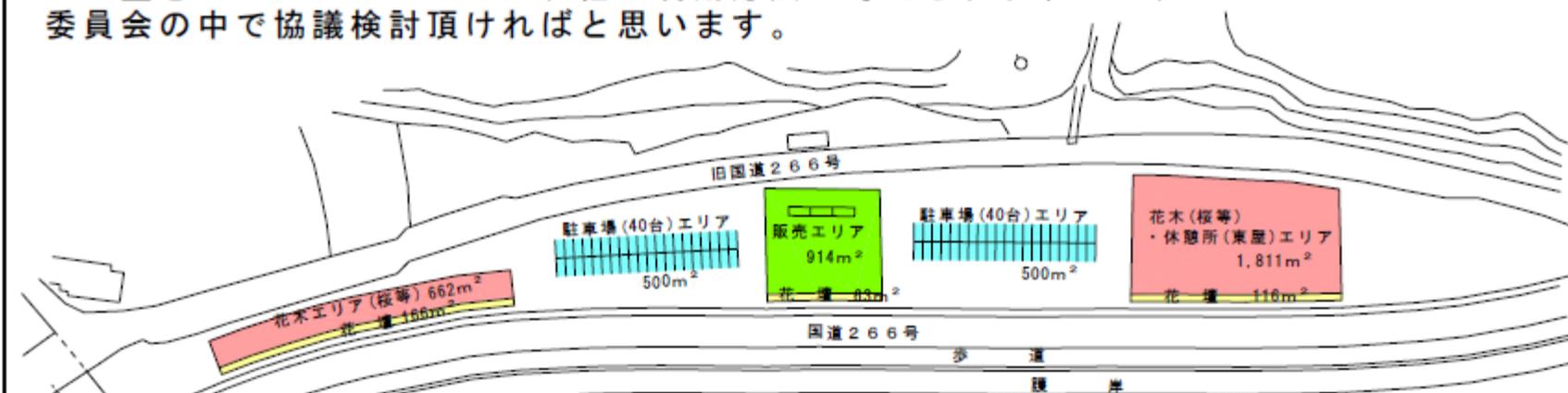
※ 空きスペースについては、他の利用方法が考えられますので、委員会の中で協議検討頂ければと思います。



貨物用コンテナ（20フィートコンテナ）
サイズ：高さ 2.591m、幅 2.438m、長さ 6.058m

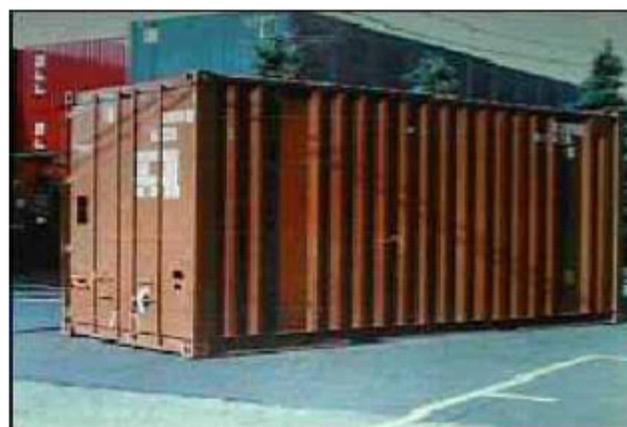
イメージ図拡大

※ 空きスペースについては、他の利用方法が考えられますので、委員会の中で協議検討頂ければと思います。



凡 例

	エリア名称	面積
	販売エリア	914 m ²
	駐車場エリア	1,000 m ²
	花木エリア	2,473 m ²
	花壇エリア	345 m ²



貨物用コンテナ (20フィートコンテナ)
サイズ：高さ 2.591m, 幅 2.438m, 長さ 6.058m

【メリット】

- ・敷地が広く、駐車スペースが確保できる。
- ・国道沿いのため、地区住民や通勤者、観光客が立ち寄りやすい。
- ・土砂が撤去された後、市有地となる予定であり(現在、県と協議中)、姫浦地区まちづくり委員会で活用できる可能性がある。

【デメリット】

- ・周囲に民家が少なく、拠点という雰囲気薄い。
- ・警備面で住民の目が届かない。

【これからの課題と問題点】

- ・出品者の募集を一度行ったが予想より少なく思うように計画書作成が進捗していない。また、出品をしようと考えている方はいるようだが実際始まってからと様子見の方がいるように思う。
再度、募集を行う予定である。
- ・販売方法は現在、出品予定者との間で協議中である。